

【みんなの心にくるBJS郵便局 閉局】(児童会担当 甘利)

昨年の12月4日に開局した「みんなの心にくるBJS郵便局」も、もちつきカルタ大会中にご家族の皆様へ年賀状を配り終えたことで全ての仕事を終了し、無事に閉局いたしました。受け取った年賀状をご覧になって、保護者の皆様はどんな気持ちになりましたか。喜んでいただいたり、いつまでも心によい思い出として残ったりする、そんな年賀状が届いたのなら幸いです。この取り組みは、ハンガリーの地にありながら、“あいさつを重んじる”という日本文化の素晴らしさに触れるよい機会であったと考えています。これからも日本のよさを感じ、大切にできるよう、子ども達と一緒に活動していきたいと思えます。

【もちつきカルタ大会を終えて】(もちつきカルタ大会担当 佐藤・牛嶋・日原)

今回のもちつきカルタ大会では、「高め合う」「あきらめない」「すすんで」の3つをめあてとしました。このめあての下、カルタの練習に積極的に取り組みました。そして、試合の中では、互いの努力をたたえ合ったり、相手のよい点を見習ったりしようとする姿が多くみられました。こうした子どもたちの自主性や他者を肯定する態度に育ちを感じました。今年度は、1日目の予選はリーグ戦、2日目の決勝は、トーナメント戦で行いました。熱戦が続き、名勝負も数多く生まれました。優勝者は、1・2年生の部が吉田拓磨さん、3・4年生の部が若尾恵里奈さん、5年生から中学3年生の部が古田彩英さんでした。

昼からは、きねを持ってのもちつき体験やおいしいおもちに子どもたちの笑顔もあふれ、心から楽しいひと時となりました。保護者の方々や現地の方にも大勢参加していただき、大いに盛り上がりました。本当にありがとうございました。



【カーロリ大学に向けた学習発表会について】(5・6年生担任 佐々木・甘利)

5・6年生の総合学習の最後の表現活動では、これまでの学習の過程やそこでの学びをカーロリ大学の学生の皆様に向けて発表することを計画しています。

これまで5・6年生は、まさにこの1年をかけ、「ハンガリー文化」を体験しながら学んできました。6月には郊外の施設へ出かけ染色体験を行いました。同時期にパブリカの栽培を始め、自分たちで育て上げたパブリカを材料にグヤーシュづくりも行いました。10月からは、ハンガリーダンスの練習をはじめ、ドナウ祭で披露しました。そして、これらの活動の一つ一つが終了するごとに、カーロリ大学の日本語学科の学生を招いて、自分たちの学びを現地の方に伝えたり、さらに知らないことを教えてもらったりしながら学びを深めることを続けてきました。その交流の回数は、合計4回となりました。

充実したこの1年の活動とその学びを、子どもたちと相談した結果、「パンフレット」と、「模造紙」、そして「パワーポイント」という3つのまとめ方でカーロリ大学の方に伝えます。



3つの表現方法に分けたのは、それぞれの表現方法によって「伝える内容」が変わるからです。担当する子どもたちも、一人ひとりの個性が生かされるようにして組み分けました。今、子どもたちは、決められた時間の中で、自分たちで役割分担をしながら計画的に学習のまとめをしようとしています。

「とにかく現地のもっと触れる」ことを大切にしたこの総合学習のまとめが、聞き手であるカーロリ大学の学生の方々にとっても有意義なものとなるよう最後までしっかり学習を進めていきたいと思えます。